

## 東京散策

(その4) 春のまないた橋界限

沼舘 典子

バラ、スイトツピイー、スカビオサ、ラナンキュラス、チューリップ等々、花屋の作業台は今たくさんの春の花と香りで溢れている。

午前中に仕入れた花は夕方には切花や、アレンジ、花束として各店舗に送り出さなければならぬ。つまり仕事の後半は時間との戦いとなる。花の名前を覚えるだけでも一、二年はかかるといわれるこの業界も奥が深いのだ。

さて、今回の東京散策だが高田郁の「みをつくし料理帖」の舞台となる「まないた橋」界限をぜひ見たいという趣味的な思い入力でスタートは半蔵門線の九段下だ。

昨年NHKでも放映され続編が待たれるところだが、

黒木華演じる『澪』が江戸下町で苦難に立ち向かいながらも料理人として成長していく心あたたまる人間模様だ。

ところで、まないた橋の名前の由来だが、江戸城の賄い方が住んでいた武家屋敷の御台所町が近くに有ったことに関係するらしい：、ということでは東京行きは桜が散り始めた三月末となった。

メトロの永田町で半蔵門線に乗り換え九段下で下車。アッタ！ 日本橋川に架かるまないた橋は交通量の多い靖国通りの坂下にあたる。川の真上を首都高が走り、その立体的な構造から力強い躍動感が伝わってくる。

日本橋川のゆるやかな流れにそっと耳を澄ますと川下の方からはるか彼方の江戸っ子たちの賑やかな笑い声が聞こえてきそうだ。

江戸の始めはこのまな板橋も二本の板を渡しただけの粗末な橋だったというが、江戸幕府が倒れ、今年には維新から百五十年が経つ東京。いまや都市圏として世界最大の人口、経済力を擁している。東京の魅力を一挙げるとすれば、江戸から現在までの歴史の痕跡がいたるところに散りばめられているが、ブラリ歩くとその素敵な宝石箱との出会いが有ることだ。

さて、このまま直進すれば神田古書街に出るが今日

靖国神社方面に向かう、なだらかな坂の上に高さの  
際立つ鳥居が目に入る。

私の郷里、山口に住む姉夫婦が上京した際に訪れて  
以来だが、敷地内の資料館でゼロ戦やいくつかの戦艦  
を見て回った思い出がある。

靖国神社は元々は幕末から維新にかけて国家の為に  
亡くなられた多くの人々の魂を祀る為に、明治時代に  
建てられたという。坂本竜馬、吉田松陰の魂も祀られ  
ているそうだ。また、いうまでもなく明治以降の数々  
の戦争に命を捧げられた多くの人々の魂も祀られてい  
る。二百四十六万六千柱という甚大な尊い命の上に今  
の日本がある。

参拝を済ませ新たに境内を見渡すと、桜の開花基  
準となっている標本木に何人も人がシャッターを押  
している。開花発表から十四日目になるが充分に美し  
い。さて、この週末は天候にも恵まれ靖国通りを渡っ  
た千鳥ヶ淵周辺も散りゆく桜を楽しみむ人でいっぱいだ。  
庭園デザイナーの石原氏いわく「日本人は松と桜が  
好きだ」と。この二つが似合う一押しは皇居のお堀だ  
わ、と思いつつ遅いランチをとり赤坂まで戻った。

今日はこのあと、先日オープンしたばかりの東京ミ  
ッドタウン日比谷に立ち寄ることにした。メトロの銀

座で降り、ガード下から日比谷シャンテ方向に。する  
と目的地の建物に隣接したシャンテ広場になると映画  
で観たシン・ゴジラがいるではないか。ナゼダ？ 高  
さ三メートルの新・ゴジラ像は映画演劇の街、日比谷  
の新たなシンボルになって守り神であるとのこと。こ  
のエリアは帝国劇場、宝塚劇場、日生劇場、シアター  
クリナ、T.O.H.O シネマシャンテ、今回の日比谷と日  
本屈指の劇場街となっている。ナットク！

さて、当のミッドタウン日比谷だが凄い人・人・人  
だ。一Fの入り口外階段からつながる二F入り口とも  
に長蛇の列だ。皇居、日比谷公園を目の前に位置する  
三十五階建てのビル。列に並び中に入ると劇場空間を  
参考にデザインされた三層吹き抜けの造りは確かに劇  
場の趣だ。

「アパレルショップ、雑貨店、コーヒースタンド、メ  
ガネ店、ビストロ、ギャラリ、理容室からなる東南  
アジアっぽい雑多な心地よいマーケットを表現」した  
という担当者。どのショップも覗いてみたくなるよう  
な興味が湧いたが人が多すぎてゆっくりと見ることも  
出来ず。また、姪を誘って近いうちに来ることにしよ  
う。

了